

TOP > 論文・レポート > 子ども未来紀行～学際的な研究・レポート・エッセイ～ > 【一人一人の違いに寄り添うために】第10回 部屋の外に飛び出そう

いいね！ 4

ポスト

B!

キーワード検索



論文・レポート

Essay · Report

【一人一人の違いに寄り添うために】第10回 部屋の外に飛び出そう

著者： 蓑手 章吾 (HILLOCK 初等中等部 学院長)

掲載日： 2024年10月18日掲載

カテゴリー： 一人一人の違いに寄り添うために 子ども未来紀行～学際的な研究・レポート・エッセイ～

関連キーワード： インクルーシブ教育, 日本, 蓑手 章吾

English

私は、知的障害の子どもたちが通う特別支援学校で働いていましたが、そこでこんな印象深いことを耳にしたことがあります。

「ADHDのような、落ち着きがないとされている子を大自然の中に連れていくと、嘘のように静かになる」

それからというもの、私は野外や自然がもつ力について（あるいは閉じられた空間にいることの弊害について）、学校という場で考えてきました。

ヒロックでは、正午になると毎日お弁当を持って近くの公園へ行き、自然の中でご飯を食べるようにしています。授業もなるべく外で行うようにしています。

毎日、同じ時間に同じ場所へ行く。そうすると、自然の微妙な変化が見えるんですね。風の強かった次の日は、枝が折れて落ちていたり、雨上がりの日には草木が露で光っていたり、大きな水たまりができていたり。

「なんでこっちは水たまりができてないんだろう？」

「昨日あった水たまりがなくなってる！ 水はどこにいったんだろう？」

学びの種は、身近な日常生活の中に転がっているものです。

春には花が咲き、夏には虫が現れる。秋には葉が紅葉し、冬には落葉して雪景色が広がる。そんな四季の変化を豊かに感じられるのは、やはり自然の中に身を置くからこそですね。

Google 提供



Find us on **facebook**

インクルーシブ教育



社会情動的
スキル



遊び



メディア



発達障害とは？



タイプ・年齢別の症状と対応

CRN
アジア子ども学
研究ネットワーク



CRNAの研究活動

Research Activities at CRNA



所長ブログ
Director's Blog



よく「子どもの成長にとって、自然体験が重要だ」と言われます。私も同感です。だからと言って、それは「年に2回キャンプに行けばよい」とか、そんな単純なことでもないよなあとも思っています。

非日常としての自然体験は、エンターテインメントとして終わり、ただ興奮するだけで通り過ぎてしまうことが多いように感じます。日常の中に、定点観測できる自然があることで、地球の循環や生命の営みが捉えられるのではないのでしょうか。

自然のもつ教育的価値は計り知れませんが、中でも特に「可塑性のある素材が無尽蔵に存在する」という点が挙げられるでしょう。

「可塑性」というのは、言うなれば形態を変化させることが可能であるということ。木の枝は折ると2本に分かれるし、地面を掘ったら穴が空きます。場所にもよりますが、基本的には枝を折ったり地面を掘ったりしても、とがめられることはありません。それは、私たち大人の中に共通して「自然界のものはみんなのもの」「誰かがコントロールしきれものではない」という暗黙知があるからではないのでしょうか。これが室内のおもちゃであったり、施設設備であったりしたらそうはならないですよ。



もちろん、積み木や折り紙のように、可塑性の高い遊具もあるにはあります。しかし、さすがに積み木自体を破壊したり、色を塗ったりすることは許されないし、近頃の保育施設では「折り紙は一人2枚まで」というように制限されているところも多いと聞きます。

また、自然の中には壁や天井がないというのも、重要な要素なのだと思います。室内環境では、よっぽどでもない限り、壁や天井という制約があります。それは子どもにとって、自分たちの行動や想像力を縛るものとなってしまっているのではないのでしょうか。

最近では、「周囲から苦情が来るから大きな声や音は出してはいけない」「壁が汚れるから暴れてはいけない」など、より強固に制限されているように感じます。学校に入学すると、あらかじめ備え付けられた机と椅子に挟まれ続けるよう強制され、そこから抜け出すと叱られる。そんな環境では感情が爆発してしまう子の方が、むしろ自然な反応をしているように感じます。

Tweets by crn_jp

ご意見・ご質問

CRNへのご意見・ご質問はこちらへお寄せください。

[ご意見・ご質問はこちら](#)

メルマガ登録

メールマガジン「CRN通信」を購読しませんか？子どもにまつわる耳よりな情報をお届けします。

[登録・変更はこちら](#)

最近では、公園でさえ「近隣の迷惑になるから大声禁止」だとか「ボール遊び禁止」などといった、規制の波が押し寄せてきています。子どもたちの育つ権利は、果たしてどこに行ってしまうのでしょうか。

もっと外に出ましょう。外に出ると、大人の心もおおらかになります。室内で縛られているのは何も子どもだけではありません。担当者として責任をもつ大人にとっても、同じかそれ以上に縛られる空間にいるのです。

「学校や社会に適応できない子どもが増えている」と言われますが、私はむしろ「社会の都合に適応させたい大人が増えている」という表現の方が正しいと思います。「大人も学ぶ」と言われますが、むしろ大人の方が緊急性をもって、既得権益を濫用していることを反省し、学び直さなければいけないのだと感じています。



[<< 前の記事へ](#) | [次の記事へ >>](#)

筆者プロフィール



蓑手 章吾 (みのて・しょうご)

HILLOCK（ヒロック）初等中等部 学院長。元公立小学校教員で、教員歴は14年。教鞭を持つ傍ら大学院にも通い、人間発達プログラムで修士修了。プログラミング教育で全国的に有名な前原小学校では、研究主任やICT主任を歴任。2022年4月、オルタナティブスクール・HILLOCK（ヒロック）初等部を開校。著書に『子どもが自ら学び出す！自由進度学習のはじめかた』『個別最適な学びを実現するICTの使い方』（ともに学陽書房）、共著に『知的障害特別支援学校のICTを活用した授業づくり』（ジアース教育新社）、『before&afterでわかる！研究主任の仕事アップデート』（明治図書出版）などがある。

関連キーワード： [インクルーシブ教育](#), [日本](#), [蓑手 章吾](#)



この記事の関連記事

- ➡ [【日本】ワクワク・ドキドキを生み出す砂場の周辺環境 ～もっと楽しい園庭のデザインを考える～](#)
- ➡ [【タイ】屋外用ルースパーツを用いた「ガイドされた遊び（Guided play）」：幼稚園における共同遊び行動への取り組み](#)
- ➡ [【一人一人の違いに寄り添うために】第6回 椅子に座って話を聞くのはマナー？](#)

論文・レポート新着記事

- ➡ [【誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現を目指す「こども家庭庁」】その11：若い世代の描くライフデザインや出会いを考えるワーキンググループ](#)
- ➡ [【誰一人取り残さない「こどもまんなか社会」の実現を目指す「こども家庭庁」】その10：こども政策に関する国と地方の協議の場～こども政策の最前線は自治体～](#)
- ➡ [【一人一人の違いに寄り添うために】第12回 知識は無限、順位は有限](#)

調査データ

- ▶ 乳幼児
- ▶ 小中高生
- ▶ 国際調査

▶ More

研究論文

- ▶ 異文化理解
- ▶ 健康と発達
- ▶ 学校教育
- ▶ 子どもの権利

▶ More

海外の子育て

- ▶ インド
- ▶ カナダ
- ▶ タイ
- ▶ ドイツ（ベルリン）
- ▶ ニュージーランド
- ▶ ノルウェー
- ▶ フィンランド
- ▶ サウジアラビア ▶ More

CRNについて

- ▶ ごあいさつ
- ▶ CRN概要
- ▶ 活動履歴
- ▶ CRN刊行物

▶ More

